

## 分類別クラス別利用統計

5月の利用状況です

学年	組	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	技術・工学	産業	芸術・美術	言語	文学	計
1年	1組	0	0	0	0	0	0	0	21	0	13	34
	2組	1	0	0	1	0	0	0	1	0	1	4
	3組	0	0	0	1	1	3	0	3	0	2	10
	4組	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2
	5組	0	1	0	0	0	0	0	72	0	2	75
	6組	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	1	1	1	2	1	3	0	97	0	19	125
2年	1組	0	0	0	1	0	0	0	0	2	2	5
	2組	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
	3組	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4組	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
	5組	0	0	0	9	9	2	0	1	0	4	25
	6組	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3
	小計	0	0	0	10	9	2	0	1	2	13	37
3年	1組	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2組	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3組	0	0	0	0	0	0	0	1	4	3	8
	4組	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	4
	5組	1	0	2	3	0	0	0	0	0	1	7
	6組	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	7組	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	1	0	2	3	0	0	0	1	8	4	19
職員	-	0	0	2	1	0	0	1	2	0	5	11
合計	-	2	1	5	16	10	5	1	101	10	41	192

## 図書館からのお知らせ

公益財団法人 一ツ橋文芸教育振興会からコンクールの案内が来ました。

- 「22<sup>nd</sup> 聞き書き甲子園」 め切 2023年6月22日(木)必着
- 「全国高校生読書体験記コンクール」 め切 2023年9月30日(土)当日消印有効
- 「集英社ノベルズ大賞」 め切 2024年1月10日当日消印有効  
Webは23時59分まで
- 賞 大賞 正賞と副賞 300万円
- 準大賞 正賞と副賞 100万円
- 佳作 正賞と副賞 50万円
- 「第4回高校生のための小説甲子園」 め切 郵送 8月15日(火)当日消印有効
- WEB 8月15日(火)23時59分まで
- 賞 優秀賞1名 賞金10万円など

以上のコンクールについて、図書館前にポスターを掲示しています。募集要項は図書館カウンターにあります。「聞き書き甲子園」はめ切が迫っていますが、ほかはまだまだチャンスがあります。「集英社ノベルズ大賞」は年齢性別の制限なく募集されていて、プロへの登竜門になりそうです。皆さんもチャレンジしてみたいかがでしょう。(作家の乙ーさんも高校在学中にデビューしていますし…)「小説甲子園」については「高校生のための読書への招待 2023」という小冊子に募集要項が記載されています。詳しくはWebを参照してください。

### 図書館で勉強する皆さんへ

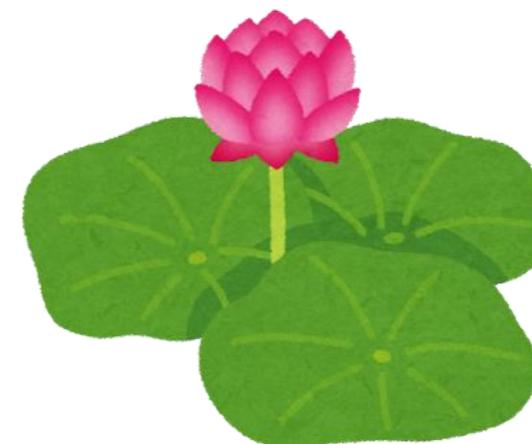
最近、昼休みや放課後に図書館で勉強する人を見かけます。他にも考査前には図書館で勉強しようと計画している人がいるかもしれません。自学自習での利用は大歓迎です。ただし、以下の点には気を付けてください。

- ・ 図書館での飲食は禁止です。飲料水などはカバンにしまってください。
- ・ 離席するときは貴重品を身に付けてください。トイレとかちょっとの間でもです。
- ・ 消しゴムのかすなどはごみ箱に捨ててください。カウンターに折り紙の箱があるのでご利用ください。(箱ごとごみ箱に捨てましょう。)利用者端末の下にホウキとチリトリのセットがあります。こちらもご利用ください。

快適な図書館空間づくりにご協力をお願いします。

大型連休があったにもかかわらず、200冊近く貸し出しされています。1年生の利用が特に多いですね。分類では「芸術・美術」の貸出冊数が抜きん出ています。中学校とは違う品ぞろえが興味を引いているのでしょうか。2年生は文学と社会科学の利用が多いようです。小説と、進路に向けての準備でしょうか。3年生は語学関係の利用が多いです。検定に向けての勉強と思われる。

6月は中旬に定期考査があります。図書館には勉強法の本がたくさんあるので、学習スタイルの確立にお役立てください。



# 新着図書一覧

- 『ちょっとしたことでうまくいく発達障害の人が上手に働くための本』(対馬陽一郎著) [366.28 T]
- 『3万人の大学生が学んだ恋愛で一番大切な"性"のはなし』(村瀬幸浩著) [367.99 M]
- 『考えたことある?性的同意』(ピート・ワリス著) [367.99 W]
- 『3.11 東日本大震災宮城県建設業協会の闘い』(宮城県建設業協会著) [369.31 M]
- 『体育学部・スポーツ科学部 なるには BOOKS. 大学学部調べ』(山下久猛著) [376 N]
- 『偏差値45からの大学の選び方』(山内太地著) [376.87 Y]
- 『小学生がたった1日で19×19までかんぺきに暗算できる本』(小杉拓也著) [411.1 K]
- 『なんとな〜く物理 = NANTONAKU PHYSICS』(ネコザメタカシ著) [420 N]
- 『増えるものたちの進化生物学』(市橋伯一著) [467.5 I]
- 『昆虫の惑星』(アンヌ・スヴェルトルップ=ティーゲソン著) [486 S]
- 『月間100万人利用アプリ!頭痛ーるが贈るしんどい低気圧とのつきあいかた』(頭痛ーる編集部著) [498.41 Z]
- 『核のごみをどうするか 岩波ブックレット』(今田高俊著) [539.69 I]
- 『綿の帝国』(スヴェン・ベッカート著) [586.22 B]
- 『台所をひらく』(白央篤司著) [596 H]
- 『フライパンリゾット = FRYING PAN RISOTTO』(若山曜子著) [596.3 W]
- 『コンテンツと地域 シリーズ・21世紀の地域 シリーズ・21世紀の地域』(原真志著) [601.1 H]
- 『農家が教える鳥獣害対策あの手この手』(農文協著) [615.86 N]
- 『小麦粉の魅力』(製粉振興会著) [619.3 S]
- 『欲望の植物誌』(マイケル・ポーラン著) [622 P]
- 『SPY×FAMILY II』(遠藤達哉著) [726.1 EII]
- 『絵本のなかの動物はなぜ一列に歩いているのか』(矢野智司著) [726.6 Y]
- 『真夏の甲子園はいらない 岩波ブックレット』(小林信也著) [783.7 K]
- 『ゲーム業界のしくみと仕事がこれ1冊でしっかりわかる教科書』(岡安学著) [798.5 O]
- 『バズるは英語でなんて言う? 星星の1日1フレーズ』(星星著) [837.8 S]
- 『街とその不確かな壁』(村上春樹著) [913 M]
- 『汝、星のごとく』(凧良ゆう著) [913 N]
- 『世界でいちばん透きとおった物語』(杉井光著) [913 S]
- 『千葉からほとんど出ない引きこもりの俺が、一度も海外に行ったことがないまらルーマニア語の小説家になった話 = Eu nu prea ies din casă, abia de parasesc Chiba, nu am fost niciodată în străinătate, dar am devenit scriitor român. 』(済東鉄腸著) [979.1 S]

## 新着図書より

『ちょっとしたことでうまくいく発達障害の人が上手に働くための本』

やらなければならないのに後回しにする。散らかった机や物音が気になって集中できない。こうした困りごとについて障害の種類ごとに解決策を提案したのが本書。メモのしかたや引き出しの整理や忘れ物防止策など、仕事でなくても役立ちそうな情報があります。

『3万人の大学生が学んだ恋愛で一番大切な"性"のはなし』

この本は生きていくうえで知っておくべき「性」について書かれた本です。内容は大学の講義と学生からの感想レポートで構成されています。デートDVや性を通しての人間関係について、どんな偏見があり何が正しい知識かわかりやすく書かれています。学生からの感想を読むと、「恋人関係」の中にひそむDVの多さに驚きます。中には「彼氏は去年この講座を聞いていたからか、私をとてとても大事にしてくれて…」なんて意見もありました。男女を問わず(性自認・性指向を問わず)幸せな恋愛関係を築くために是非一読を。

『考えたことある?性的同意』

この本は「新入生がレイプされたいらしい」と聞いた大学生の男女が、学校帰りにいろいろおしゃべりしながら「性的同意」について考えるというストーリー仕立ての構成です。「酔いつぶされてレイプされたのは被害者のせい?」「同意とは?」「好きなら裸の写真を送るべき?」といったガールズトークに男子も合流し…。解散した後彼女たち彼たちがどんな行動をとったでしょうか。自分がこの会話の中にいたら何を思い何と発言するか、考えながら読んでください。

『昆虫の惑星』

虫が苦手という人は多いでしょう。しかし彼らは人類よりはるかに早く出現し5度の大量絶滅をすべて生き延びた、地球生物界の大先輩でもあります。本書はノルウェーの女性昆虫学者が送る「昆虫すごいぜ!」なノンフィクションです。ちなみに今年度の読書感想文コンクール課題図書です。

『台所をひらく』

フードライターで料理好きの筆者でもご飯を作りたくない日がある。これは「今日は料理作るのがしんどい」人への「自分もそう。無理せず気軽に行こう。」というエールのような本です。「料理ルッキズムもほどほどに」「炊き込みご飯はあまり材料の消費に◎」など気を引く見出しがたくさんあります。3章の「台所仕事は 作って食べて だけじゃない」は料理をしない人にこそ読んでもらいたい話です。家庭を営むということの本質に触れているように思います。

『街とその不確かな壁』『汝、星のごとく』『綿の帝国』『千葉からほとんど出ない引きこもりの俺が、一度も海外に行ったことがないまらルーマニア語の小説家になった話』

この4冊は教員からのリクエストの本です。「千葉から…ルーマニア語…」は引きこもりで鬱で難病を抱えた著者の仰天情熱ノンフィクションエッセイだそうです。未読ですが映画化希望。